

第68回全国高等学校PTA連合会大会佐賀大会報告

県高P連副会長(長府高校会長)

長岡敏信

第68回全国高等学校PTA連合会大会佐賀大会が、平成30年8月20日、21日の2日間、佐賀県佐賀市にある佐賀県総合体育館大競技場をメイン会場に、全国から9234名の参加者を迎え開催されました。なお、山口県からは125名の参加がありました。

本大会は、メイン会場のほか、4つの分科会会場、に分かれて開催されました。佐賀市文化会館、唐津市文化体育館、鳥栖市民文化会館、嬉野市体育館と、まさにオール佐賀での全国高P連関係者の受入をしていただきました。

我々は、宿泊先の福岡市内から、バスに乗り、第4分科会会場である嬉野会場へ向かいました。途中の大宰府インターでは合流するバスの団体名が、栃木県高P連、高知県高P連など・・・大会の規模の大きさを出発地点から感じました。

嬉野会場へ到着すると、暑い日差しの中、鹿島高等学校PTAを中心とした開催スタッフの優しく心温まるあいさつに迎えられて会場入りいたしました。

今大会のテーマは「広めよう高めよ

う慈しむ心」～私たちがつくる希望の明日を～でした。

幕末から明治時代を背景に政治・産業・科学・芸術の分野で先進的な活動を展開した佐野常民は、1877年西南戦争に際し、敵味方の区別なく負傷者を救護する博愛者を設立、その後日本赤十字社と改称し現在に至っています。

そこには、どんなに科学技術や産業が発展、進歩しても博愛の精神がなければ真の先進国に成り得ないという、常民の確固たる思いが込められています。

開会式では、西岡佐賀大会実行委員長も、幕末維新期に活躍した佐賀の偉人の1人である、前述の佐野常民伯爵の精神に触れ、その精神は、生命を大切にする心や他人を思いやる心の育成や規範意識などの道徳性を身に付けることにも繋がり、混迷の時代を生き抜く子どもたちが、学校・家庭・地域・社会において慈しむ心を忘れず、私たちPTAがその支えとなり、希望の明日をつくっていくための大いなる一歩を踏み出す大会にしたいと、ご挨拶されました。

表彰式では、山口高等学校が優良PTA文部科学大臣表彰を、厚狭高校顧問八橋さん、豊北・下関北高校顧問森岡さんが全国大会会長個人表彰を、山口農業高等学校PTA、豊北・下関北高等学校PTAが全国大会会長団体表彰を受賞されました。また西京高等学

校元会長白木さんと山口高等学校前会長長原さんが今年度のPTA活動振興功労者表彰を受賞されました。開会式直後の基調講演では、ラジオDJレモンさん(山本シユウさん)の「レモンさんのビタミントーク!～慈しみの愛言葉! We are シンセキ!～」

